

生麦事件と神戸事件

生麦事件 第一部

史料A 神奈川奉行阿部越中守、老中へ報告

武州生麦村地内において外国人達殺害候始末申し上げ候書付

神奈川奉行

私御預所武州生麦村地内において、今廿一日昼八つ時

頃、外国人達殺害候趣に付、不取敢神奈川宿へ出張、

支配向のもの共夫々手分けいたし差遣し、始末

為取調候処、名前不知英国人貳人、亜国人壹人、

外女異人壹人、一同川崎宿の方へ乗通候途中、

生麦村地内小名元宮町、原町の間にて、薩州家来

嶋津三郎同勢に行逢候節、供方のものより下乗

致候様、手真似を以声掛け候由の処、言語も通り兼候哉、

右外国人共、三郎乗駕近く乗寄候に付、供方の内、

人数不知抜連、外国人乗居候人馬共疵為負、右の内、

壹人は深手にて相倒れ、其余の外国人は疵請候俣

逃退候趣の由、同所へ差遣し候支配向のもの罷帰

申聞。然る処、三郎儀は直様同勢引纏、程ヶ谷宿へ

罷越候由にて、事柄発揮と不致候間、糺方として

同人旅宿へ支配組頭差遣申候、右引合候始末、并

英・亜・仏三ヶ国ミニストル等引合候趣、猶委細申上

候得共、先不取敢此段申上候、以上

八月廿一日

阿部越前守

史料B 大久保利通日記

八月廿一日

一 今日六つ半時御仕舞、四時高輪御屋

敷、御機嫌克被遊御發駕候

拾四丁計

品川御小休 大佛前 萬屋半左衛門

吉り九丁

大森御小休 山本休三郎

吉り九丁

川崎御休

吉り半

生麦御立場 富士屋傳七

吉り

神奈川御立場御本陣 石井源右衛門

吉り九丁

右の通被遊御通行、神奈川御小休相成、無程

程ヶ谷駅へ暮時分、被遊被光着候

一 異人生麦村にて御行列

乗 壹人切捨、外は逃去候由、神奈川辺

別て及騒動候、今晚四つ半頃退出

一 神奈川にて高橋猪太郎・土師吉兵衛へ夷人拳動

探索相托置候、今晚問合度々相達、夜明ヶ

高橋猪一郎参り即出殿云々 (以下略)

御立場 ([おたちば])
街道の宿駅の 出入口に設けられた休息所。掛け茶
屋のこと。休憩は出来たが、宿泊は禁じられてい
た。

史料C 生麦村名主の報告

乍恐以書付奉申上候

當御預所橋樹郡生麦村百姓勘兵衛奉申上候

今廿一日、異人殺害および候始末、私見請居候に

付、御尋御座候間、此段奉申上候、私儀、農業渡世罷

在候處、今未の刻、嶋津三郎様御上り御通りの節、

當村の内、字本宮町にて、神奈川の方より國名相

分り不申異人四人、内吉人女、何れも乗馬にて、右

嶋津様へ行逢候に付、御先手衆より御聲懸り

候を、右異人、更に聞入不申、既に御籠先近く相成

ると心得居候内、最早拔連、異人腰の當りへ被切

付候様子にて、其儘異人は神奈川の方へ立去り、

吉人は深手の様子にて、當村の内、字松原にて落

馬いたし相果、外三人の義は、何れへ参り候哉、辨

不申候、依之連印の書面奉差上候、以上

生麦村

百姓 勘左衛門 印

年寄 伊右衛門

文久二戌年八月廿一日

同 兵兵衛

同 庄三郎

勘四郎

東左衛門

御取締

定御廻り

御役人中

史料D 生麦痕人名前

英国吉番船茶商アースホテル宅に繋(暫カ)時滞留の英商

一 生麦村松原にて死す、馬切れる

ミチスン廿八才 即死

同百番船

一 右之前肩深手、左の腰斜に深手式ケ所浅手

マーシユル 本覺寺にて治療致居

一 左之耳かすり、髪切り、額少々かすり、後腰疵少々有之候

同人妻の妹

横浜に馬にて立歸る

亞商世三三番と六番船ホーフ同居の英人綿商

クラーク 本覺寺にて治療す

一 左の肩より腕に掛深手、足半ばは切られ馬切られる

クラーク 本覺寺にて治療す

クラーク 本覺寺にて治療す